

研修カリキュラム表

事業所名：糸魚川市社会福祉協議会介護センターにじ

平成 3 1 年度

科目の内容等				評価方法
科目の細則	時間	「修了時の評価ポイント」番号	実施方法	
1 職務の理解 (6時間)				
多様なサービスの理解	3	-	(講義) ・介護保険のサービス、保険外サービスの概要を説明する。 ・介護保険外サービスの概要を説明する。	評価なし
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	-	(講義) ・各サービス事業所、介護保険施設の仕事の内容の紹介を行う。個人ワークによる乾燥や意見を記入し、グループで話し合う。	
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)				
人権と尊厳を支える介護	6	2 - (2)	(講義) ・人権と尊厳の保持についての基本的な考え方について説明する。 (演習) 尊厳、人権に対し、個人ワークとグループワークでのディスカッションを行う。 (講義) ・高齢者虐待防止、養護者支援、身体拘束禁止に対して説明する。 (演習) ・事例にもとづき虐待類型と具体的な対処例のグループディスカッションを行う。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
自立に向けた介護	3	2 - (1)	(講義) ・自立支援及び介護予防の考え方について説明する。 (演習) 自立支援、介護予防という考え方に基づいたケアとは何かに気づくためのグループワークを行う。	
3 介護の基本 (6時間)				
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	3 - (1) 3 - (2)	(講義) ・介護環境の特徴を理解し、地域包括ケアの方向性に対し説明する。 ・介護の専門性、重度化の防止、チームケアの重要性について説明する。 (演習) ・事例から、自立を支援するサービスや事業を考える。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護職の安全	1	3 - (5)	(講義) ・介護職員の健康管理としてストレスマネジメントやメンタルケアについて説明する。 ・腰痛予防や手洗い、うがいの励行、感染症対策について説明する。	
介護職の職業倫理	2	3 - (3)	(講義) ・専門職の倫理の意義、介護の倫理について説明する。 ・介護職としての社会的責任、プライバシーの保護及び尊重について説明する。	

介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	3 - (4)	(講義) ・介護における安全の確保のため、事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザードを説明する。 ・事故予防のリスクマネジメントとして、分析の手法と視野、報告等の情報の共有について説明する。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)				
介護保険制度	3	4 - (1) 4 - (2) 4 - (3)	(講義) ・介護保険制度創設の背景、目的、動向についてケアマネジメントや地域包括支援センターの設置等について説明する。 ・介護保険制度の基本的仕組み、介護給付及び予防給付の種類、要介護認定の手順について説明する。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
障害者自立支援制度及びその他制	3	4 - (2) 4 - (4)	(講義) ・障害者福祉制度の理念について説明する。 ・障害者自立支援制度の仕組みについて説明する。 ・個人の権利を守る制度について説明する。	
医療との連携とリハビリテーション	3	4 - (5)	(講義) ・医療行為と介護のかかわりを説明する。 ・リハビリテーションの概念、必要な専門職、QOLについて説明する。 (演習) ・介護の現場で多くかかわる医療機器について動作確認や測定を行うデモンストレーションを行う。	
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)				
介護におけるコミュニケーション	3	5 - (1) 5 - (2) 5 - (3)	(講義) ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について説明する。 ・コミュニケーションの技法、道具を用いたコミュニケーションについて、説明する。 (演習) ・利用者、家族とのコミュニケーション技術の実践を体験するためにロールプレイを行い、追体験を行う。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護におけるチームのコミュニケーション	3	5 - (4)	(講義) ・記録における情報の共有化のため、介護における記録の意義や目的、利用者の状況をふまえた観察を説明する。 ・介護に関するヒヤリハット報告書や個別援助計画について説明する。 (演習) ・コミュニケーションを促す環境として、役割の認識やケアカンファレンスの重要性を知りロールプレイにて体験を行う。	

6 老化の理解 (6時間)				
老化に伴うところとからだの変化と日常	3	6 - (1)	(講義) ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴を知る。 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活の影響について説明する。 (演習) ・加齢に伴う体の変化を高年齢者疑似体験キットを用い、高齢者の心理を体験する。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
高齢者の健康	3	6 - (2)	(講義) ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点について説明する。 ・高齢者の疾病や訴え、心理的な変化について説明する。 (演習) 高齢者に多い症状をグループでディスカッションを行う。	
7 認知症の理解 (6時間)				
認知症を取り巻く状況	1	7 - (1)	(講義) ・認知症ケアの理念について認知症の人の立場から理解できるように説明する。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	7 - (2) 7 - (5)	(講義) ・認知症の概念、認知症の原因疾患と病態、原因疾患別のケアポイントや健康管理について説明する。 ・認知症の定義や物忘れとの違い、せん妄症状や治療の実際を説明する。 (演習) ・物忘れと認知症、せん妄との違いをグループワークで整理し、話し合う。	
認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	2	7 - (3) 7 - (4) 7 - (6) 7 - (7)	(講義) ・認知症の行動、心理症状及び中核症状といった生活障害、行動の特徴について説明する。 (演習) ・本人の気持ちを推察し、プライドを傷つけないためのコミュニケーション方法を知るためのロールプレイを行う。	
家族への支援	1	7 - (8)	(講義) ・介護負担の軽減(レスパイトケア)や認知症の受容過程での援助、家族の心理について説明する。	
8 障害の理解 (3時間)				
障害の基本的理解	1	8 - (1)	(講義) ・障害者福祉の基本理念とICFの分類、医学的分類、考え方について説明する。 ・ノーマライゼーションの概念に対して説明する。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
障害の医学的側面、生活障害、心理/行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	8 - (1)	(講義) ・身体障害、知的障害、精神障害における特徴や症状、支援の方法について説明する。	

家族の心理、かかわり支援の理解	1	8 - (2)	(講義) ・障害の理解と受容支援、介護負担の軽減に対して説明をする。 (演習) ・事例から家族の心理とかかわり方をグループワークで考える。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
9 こころとからだの仕組みと生活支援技術 (75時間)				
◆ 基本知識の学習 12時間				
介護の基本的な考え方	3	9 - (2)	(講義) ・ICFの視点に基づく生活支援、法的根拠に基づく介護、理論に基づく介護、介護保険制度下のサービスについて、事例を示しながら説明する。	「基本知識の学習」の最後の1時間を使い、基礎的知識の理解度について確認するため、筆記による20問の小テストを実施する。13点以下の者に対しては、補講を実施する。
介護に関するこころのしくみの基本的理解	3	9 - (4)	(講義) ・人の記憶の構造、高齢者の心理、自己実現と生きがいづくりについて説明する。 (演習) 高齢者の自己実現のため、生きがいづくりには何が必要かグループワークで話し合う。	
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	9 - (5)	(講義) ・人体の名称と働きについて、介護の流れを示しながら説明する。運動動作に関する基礎知識について、実際に体験しながら説明する。 ・バイタルサインについて説明し、観察ポイントを体験しながら説明する。 (演習) ・こころとからだのしくみに対する理解を深めるための個人ワークを行う。	
◆ 生活支援技術の学習 51時間				
生活と家事	6	9 - (1) 9 - (6)	(講義) ・家事支援の基本原則について説明し、事例を用いて具体的に説明する。 (実技演習) ・家事支援の介護技術について、一般的な調理過程をグループワークで話し合う。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
快適な居住環境整備と介護	3	9 - (3)	(講義) ・住環境整備、福祉用具の活用について事例を用いて具体的に説明する。	
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9 - (7)	(講義) ・整容に関する基本技術、支援技術について説明する。(1時間) (実技演習) ・整容に関する介護技術に関する実技演習を行う。(5時間)	

移動、移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	9 - (8)	(講義) ・移動、移乗に関する基本技術、支援技術について説明する。(2時間) (実技演習) ・移動、移乗に関する介護技術に関する実技演習を行う。(10時間)	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
入浴、清潔に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9 - (10)	(講義) ・入浴、清拭に関する基本技術、支援技術について説明する。(2時間) (実技演習) ・入浴、清拭に関する介護技術に関する実技演習を行う。(4時間)	
睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4,5	9 - (12)	(講義) ・睡眠に関する基本技術、支援技術について説明する。(2時間) (実技演習) ・睡眠に関する介護技術に関する実技演習を行う。(2.5時間)	
食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9 - (9)	(講義) ・食事にに関する基本技術、支援技術について説明する。(2時間) (実技演習) ・食事にに関する介護技術に関する実技演習を行う。(4時間)	
排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9 - (11)	(講義) ・排泄に関する基本技術、支援技術について説明する。(2時間) (実技演習) ・排泄に関する介護技術に関する実技演習を行う。(4時間)	
死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	1,5	9 - (13)	(講義) ・終末期ケアに関する基礎知識、終末期ケアについて、具体的事例にもとづき説明する。	
◆ 生活支援技術演習 12時間				
介護課程の基礎的理解	6	9 - (1) 9 - (2)	(講義) ・介護課程の目的、意義、展開、チームアプローチについて説明する。 (演習) ・介護課程の展開について、事例にもとづき展開例を参考にしながら考えていく。	研修の全科目修了後、筆記試験による修了評価において評価する。
総合生活支援技術演習	6	9 - (2) 9 - (7) 9 - (8) 9 - (9) 9 - (10) 9 - (11) 9 - (12)	(演習) ・高齢者の心身状態に合わせ、どのような介護技術を使ったらよいかを学ぶ。①事例の概要②生活状況③適切な支援技術の検討④支援技術演習⑤支援技術の課題。個人ワーク後、グループで検討する。	介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度による評価を行う。

10 振り返り (4時間)				
振り返り	2	-	(講義) ・研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきことのポイントを説明する。 (演習) ・研修を通して学んだことについて、個人ワークで自己評価する。今後継続して学ぶことについて、ワークシートに記入し発表する。根拠にもとづく介護について、確認する。	評価なし
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	-	(講義) ・継続して学ぶことについて確認し、説明する。 (演習) ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージができるように事業所における取組みを紹介する。	
合計	130時間			